



Copyright © 2026 INTRAMART CORPORATION

目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
- 3. IM-PDFDesigner for Accel Platform 2026 Spring からの変更点
- 4. 機能一覧
- 5. システム要件
- 6. 検証済み環境
- 7. 制限事項
- 8. 保証規程
- 9. 著作権および特記事項

変更年月日	変更内容
-------	------

2026-10-01	初版
------------	----

本書の内容

本書では IM-PDFDesigner for Accel Platform のリリース内容について記載されています。

製品の利用対象

次の利用を対象としています。

- IM-PDFDesigner for Accel Platform を利用したアプリケーション開発
- IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform を利用したアプリケーション開発

本書に記載されている外部サイトのURL

本書で記載されている外部URLは、2026-10-01 現在のものです。

IM-PDFDesigner for Accel Platform のエディション

IM-PDFDesigner for Accel Platform は次の2種類のエディションが存在します。

- IM-PDFDesigner for Accel Platform
- IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform

詳細については、「[機能一覧](#)」を参照してください。

帳票デザインツールと連携エンジン

帳票デザインツール

帳票レイアウトを作成するために必要なソフトウェアです。

連携エンジン

PDF帳票を出力するために必要なソフトウェアです。

スタンドアローン構成と分散構成

本書におけるスタンドアローン構成と分散構成は次の構成を指します。

スタンドアローン構成

intra-mart Accel Platform と同じサーバに連携エンジンを導入する構成です。

分散構成

intra-mart Accel Platform とは別のサーバ（PDF帳票サーバ）に連携エンジンを導入する構成で

— IM-PDFDesigner for Accel Platform 2026 Autumn リリースノート 初版 2026-10-01

IM-PDFDesigner for Accel Platform 2026 Spring からの 変更点

追加機能概要

- 変更された機能はありません。

システム要件

- サーバ要件
 - intra-mart Accel Platform
 - intra-mart Accel Platform 2026 Spring -> 2026 Autumn に変更しました。

検証済み環境

- サーバ環境
 - Red Hat Enterprise Linux 10.0 を削除しました。
 - Amazon Linux 2023 を追加しました。
 - Tomcat 9.0.113 -> 9.0.119 に変更しました。
- クライアント環境
 - Microsoft Edge 146 -> 151 に変更しました。
 - Google Chrome 146 -> 152 に変更しました。

制限事項

【追加された制限事項】

- 追加された制限事項はありません。

【変更された制限事項】

- 「Linux で連票形式 IOCELA の帳票レイアウトを利用する場合は、帳票レイアウトファイルの改行コード変更が必要です」の見出しを「[連票形式 IOCELA の帳票レイアウトを利用する場合、環境によって帳票レイアウトファイルの改行コードの変更が必要です](#)」に変更し、連携エンジン IOWebDOC 1.x に関する記述を追加しました。

【削除された制限事項】

- 削除された制限事項はありません。

IM-PDFDesigner for Accel Platform

IM-PDFDesigner for Accel Platform に含まれる機能の一覧です。

機能	機能概要
帳票レイアウト作成	帳票レイアウトを作成します。単票形式と連票形式の帳票レイアウトが作成できます。この機能は クライアント版帳票デザインツール で提供されます。
PDF帳票出力	作成した帳票レイアウトをPDFに変換します。この機能は次の形式で提供されます。 ■ スタンドアローン構成用API（Java開発向け） ■ スタンドアローン構成用API（スクリプト開発向け）



注意

IM-PDFDesigner for Accel Platform は **スタンドアローン構成** のみ対応しています。
分散構成 は対応していません。

IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform

IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform に含まれる機能の一覧です。

機能	機能概要
帳票レイアウト作成	帳票レイアウトを作成します。この機能は次の形式で提供されます。 ■ クライアント版帳票デザインツール 単票形式と連票形式の帳票レイアウトが作成できます。 ■ FullPack版 Web版帳票デザインツール イントラマート連携 intra-mart Accel Platform から呼び出した Web版帳票デザインツール にて単票形式の帳票レイアウトが作成できます。 ■ FullPack版 Formaフォーム→IOD変換（ジョブ／ジョブネット） IM-FormaDesigner for Accel Platform のフォームから単票形式の帳票レイアウトが作成できます。

機能	機能概要
PDF帳票出力	作成した帳票レイアウトをPDFに変換します。この機能は次の形式で提供されます。 ■ スタンドアローン構成用API（Java開発向け） ■ スタンドアローン構成用API（スクリプト開発向け） ■ 分散構成用API（Java開発向け） ■ 分散構成用API（スクリプト開発向け） ■ IM-LogicDesigner のユーザ定義タスク



コラム

IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform は [スタンドアローン構成](#) と [分散構成](#) に対応しています。

当バージョンにおけるシステム要件は次の通りです。

サーバ要件

intra-mart Accel Platform

- intra-mart Accel Platform 2026 Autumn （ Standard Edition 、 Advanced Edition 、 Enterprise Edition 、 Basic Edition 、 Advance Edition 、 Professional Edition ）
- 利用する intra-mart Accel Platform の [サーバ要件](#) に準じます。（ スタンドアローン構成 の場合、 Red Hat Enterprise Linux 8.x のARM64環境を除く。また、 Windows Server は日本語版に限る）



注意

intra-mart Accel Platform を [スタンドアローン構成](#) で構築する場合、 Red Hat Enterprise Linux 8.x のARM64環境での構築はサポートしません。

上記環境での利用を検討している場合、事前に「 [intra-mart サポートサイト](#) 」へ問い合わせしてください。

また、 Windows Server は、日本語版のみサポート対象となります。



注意

intra-mart Accel Platform（[スタンドアローン構成](#)）は、次の連携エンジン IOWebDOC が必要です。

エディション	連携エンジン
IM-PDFDesigner for Accel Platform	IOWebDOC 4.x、または、 IOWebDOC 1.x（※）
IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform	IOWebDOC 4.x

そのため、連携エンジンを動作させるための要件が、サーバ要件に追加となります。

追加となる要件については「[追加で必要なメモリ容量・ディスク容量について](#)」を参照してください。

また、IM-PDFDesigner for Accel Platform や各ツールのバージョン、および、エディションは必ず正しい組み合わせで運用してください。

詳細については「[バージョン、および、エディションは必ず正しい組み合わせで運用してください](#)」を参照してください。

※ IOWebDOC 1.x は互換性のために残されており、将来的に廃止される可能性があります。

IM-PDFDesigner for Accel Platform を新規に導入する場合は IOWebDOC 4.x を使用してください。

また、IOWebDOC 1.x には様々な制限があり、詳細については「[連携エンジン IOWebDOC 1.x ではいくつかの機能に制限があります](#)」を参照してください。

PDF帳票サーバ

種別	製品名
OS	利用する intra-mart Accel Platform の サーバ要件 に準じます。 （ただし、Red Hat Enterprise Linux 8.x のARM64環境を除く。また、Windows Server は日本語版に限る。）
ハードウェア	各OSの安定稼動が可能となるPC
クラウドサービス	利用する intra-mart Accel Platform の サーバ要件 に準じます。
必要メモリ容量（JVM）	推奨する最小構成 2GB 以上
JDK	利用する intra-mart Accel Platform の サーバ要件 に準じます。
Web Application Server	Apache Tomcat 9.0.x



注意

PDF帳票サーバ では、 Red Hat Enterprise Linux 8.x のARM64環境での構築はサポートしません。

上記環境での利用を検討している場合、事前に「 [intra-mart サポートサイト](#) 」へ問い合わせしてください。

また、 Windows Server は、日本語版のみサポート対象となります。



注意

PDF帳票サーバ で使用するJDKのバージョンは、 intra-mart Accel Platform で使用するJDKのバージョンと揃えてください。



注意

Apache Tomcat は、上記システム要件の、最新のマイナーバージョンを使用してください。



注意

PDF帳票サーバ （ [分散構成](#) ）は、連携エンジン IOWebDOC 4.x が必要です。

そのため、連携エンジンを動作させるための要件が、サーバ要件に追加となります。

追加となる要件については「 [追加で必要なメモリ容量・ディスク容量について](#) 」を参照してください。

また、 IM-PDFDesigner for Accel Platform や各ツールのバージョン、および、エディションは必ず正しい組み合わせで運用してください。

詳細については「 [バージョン、および、エディションは必ず正しい組み合わせで運用してください](#) 」を参照してください。

追加で必要なメモリ容量・ディスク容量について

連携エンジン IOWebDOC を動作させるために、対象サーバにメモリ容量、および、ディスク容量が追加が必要です。

必要な容量については、次の通りです。

種別	製品名
必要メモリ容量（連携エンジン）	2GB以上

種別	製品名
必要ディスク容量（連携エンジン）	次の合計値 10GB以上（PDF帳票サーバの場合は20GB以上） - 一時ファイルを作成するために必要な空きディスク容量



注意

帳票を大量出力する案件の場合は、処理量に応じてメモリ容量を追加してください。



注意

一時ファイルを作成するために必要な空きディスク容量は、ファイルの大きさや利用頻度によって異なります。

IM-PDFDesigner for Accel Platform は、次の一時ディレクトリを使用します。

- OSの一時ディレクトリ
- Javaの一時ディレクトリ（java.io.tmpdir）
- intra-mart Accel Platform の一時ディレクトリ

一時ディレクトリの空き容量が不足している場合、PDF帳票の出力に失敗する可能性があります。

クライアント要件

利用する intra-mart Accel Platform の [クライアント要件](#) に準じます。（FullPack版 Web版帳票デザインツール イントラマート連携 を利用する場合、macOS、および、スマートフォンを除く）



注意

FullPack版 Web版帳票デザインツール イントラマート連携 を利用する場合、macOS、および、スマートフォンはサポート対象外です。

クライアント版帳票デザインツール 要件

種別	製品名
OS	Windows 11 日本語版（64bit）
クライアント版帳票デザインツール	IOWebDOC 1.x IOWebDOC 4.x



注意

クライアント版帳票デザインツール の詳細なバージョンについては「[IM-PDFDesigner for Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[帳票デザインツール・連携エンジンバージョン](#)」を参照してください。

ライセンス要件

1ライセンス分の IM-PDFDesigner for Accel Platform には、次のライセンスがそれぞれ1つずつ含まれます。

ライセンス名	概要
帳票デザインツールライセンス	帳票デザインツールを導入するために必要なライセンスです。
連携エンジンライセンス	連携エンジンを導入するために必要なライセンスです。

システム構成によって必要なライセンス数が異なります。

IM-PDFDesigner for Accel Platform と IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform とでライセンス体系が異なります。

IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform

- IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform では、「連携エンジン IOWebDOC をインストールする数」分のライセンスが必要となります。
- [スタンドアローン構成](#) で利用する場合、インストールする 連携エンジン IOWebDOC は、サーバOSへの1つのみとなるため、必要なライセンスは1つとなります。
- [分散構成](#) で利用する場合、各PDF帳票サーバへ 連携エンジン IOWebDOC をインストールする必要があるため、PDF帳票サーバ分のライセンスが必要となります。
- Web Application Server 数、WARファイル数、CPU数、および、コア数には依存しません。

IM-PDFDesigner for Accel Platform

- IM-PDFDesigner for Accel Platform では、使用するWARファイルが同一／不同であるかに関わらず、「配置するWARファイルの総計」分のライセンスが必要となります。

コラム

■ ケース1

それぞれ異なる3つのWARファイル（A,B,C）を、1つの Web Application Server に配置する場合、3ライセンスが必要となります。

Web Application Server : A,B,C

■ ケース2

同一のWARファイル（A）を、3つの Web Application Server にそれぞれ配置する場合、3ライセンスが必要となります。

1つ目の Web Application Server : A

2つ目の Web Application Server : A

3つ目の Web Application Server : A

■ ケース3

それぞれ異なる5つのWARファイル（A,B,C,D,E）を、2つの Web Application Server に振り分け配置する場合、5ライセンスが必要となります。

1つ目の Web Application Server : A,B,C

2つ目の Web Application Server : D,E

※当該ケースは、それぞれのサーバが別システムであるような場合です。負荷分散目的で同じシステムを2つのサーバで運用するケースは、後述のケース4に該当します。

■ ケース4

それぞれ異なる3つのWARファイル（A,B,C）を、2つの Web Application Server にそれぞれ同じように配置する場合、6ライセンスが必要となります。

1つ目の Web Application Server : A,B,C

2つ目の Web Application Server : A,B,C

- IM-PDFDesigner for Accel Platform は [スタンドアローン構成](#) のみ対応します。 [分散構成](#) は対応していません。
- CPU数、および、コア数には依存しません。

言語（帳票）

帳票に対応している言語は次の通りです。

- 日本語
- 英語

- 中国語（簡体字）



注意

連携エンジン IOWebDOC 1.x は中国語（簡体字）に対応していません。中国語（簡体字）を使用する場合は IOWebDOC 4.x を導入してください。

フォント（帳票）

帳票に対応しているフォントは次の通りです。

- 日本語の場合
 - MS 明朝
 - MS ゴシック
 - IPA明朝
 - IPAゴシック
 - BIZ UDMincho
 - BIZ UDGothic
- 英語の場合
 - Courier New
- 中国語（簡体字）の場合
 - SimHei



コラム

等幅フォントであれば、上記以外（サポート対象外）のフォントも利用が可能です。

また、利用する場合は、印字結果を確認してから利用してください。



注意

Linux では次のフォントは利用できません。

- MS 明朝
- MS ゴシック

そのため、Accel-Mart を含む Linux 環境でPDF帳票を出力する際は、初期設定としてIPAフォントを使用します。

クライアント版帳票デザインツール IOWebDOC を使用して帳票レイアウトを作成する場合は、開発環境（Windows 環境）に IPAフォント をインストールし、帳票レイアウトに IPAフォント を指定してください。

帳票レイアウトに IPAフォント を指定せずにPDF帳票を出力した場合、帳票レイアウト上の見た目（フォント）とPDF帳票上の見た目（フォント）に差異が発生します。



注意

連携エンジン IOWebDOC 1.x は中国語（簡体字）のフォントに対応していません。中国語（簡体字）のフォントを使用する場合は IOWebDOC 4.x を導入してください。



注意

BIZ UDMincho、および、BIZ UDGothic は、Google Fontsが公開している BIZ UDフォント を利用してください。

異体字の出力

連携エンジン IOWebDOC 4.x では、一部の字形のみ、異体字を出力することが可能です。



注意

出力できる異体字は、フォントが対応している字形のみです。

次のフォントは一部の字形に対応しているため、異体字を出力する場合は、適切なフォントを次から選び、使用してください。

- MS 明朝
- MS ゴシック
- BIZ UDMincho
- BIZ UDGothic

対応している字形の例は、次の通りです。

辻辻／侮侮／榊榊



注意

異体字は、IVS（Ideographic Variation Sequence／異体字シーケンス）形式で指定してください。



注意

IM-PDFDesigner for Accel Platform の、埋め込む文字列を引数に直接指定するAPIを使用して異体字を出力する場合は、PDF帳票出力時の文字エンコード形式に"UnicodeLittle"を指定してください。

次はプログラムの記載例です。

```
const iodoc = new IODoc(iodPath, "");  
iodoc.setCharset("UnicodeLittle");  
  
// 後続処理を記載
```

データの文字コード

連携エンジン IOWebDOC が対応しているデータの文字コードは、次の通りです。

- IOWebDOC 4.x : UTF-8（BOMあり）※実装水準1に対応しています。また、結合文字は含まれません。
- IOWebDOC 1.x : Shift_JIS



注意

連携エンジン IOWebDOC のバージョンに合わせ、データの指定方法ごとに次の対応を行ってください。

- データファイルを使用する場合

対応している文字コードで、データファイルを保存してください。

- APIを使用する場合

PDF帳票出力時の文字エンコード形式に、対応している文字コードを指定してください。

次はプログラムの記載例です。

```
const iodoc = new IODoc(iodPath, "");  
iodoc.setCharset("UnicodeLittle");  
  
// 後続処理を記載
```

以下、弊社動作検証済みの組み合わせです。

サーバ環境

スタンドアローン構成

- intra-mart Accel Platform : 2026 Autumn(Nemesia)
- Web Application Server : Resin 4.0.67
- 連携エンジン : IOWebDOC 4.1.0.0 Windows版 / IOWebDOC 4.1.0.0 Linux版

環境パターン	OS	JDK
[1]	Windows Server 2025 日本語版	Oracle JDK 8u361
[2]	Amazon Linux 2023	OpenJDK 21.0.5

分散構成

intra-mart Accel Platform

- intra-mart Accel Platform : 2026 Autumn(Nemesia)
- Web Application Server : Resin 4.0.67

環境パターン	OS	JDK
[1]	Windows Server 2025 日本語版	Oracle JDK 8u361
[2]	Amazon Linux 2023	OpenJDK 21.0.5

PDF帳票サーバ

- Web Application Server : Tomcat 9.0.119
- 連携エンジン : IOWebDOC 4.1.0.0 Windows版 / IOWebDOC 4.1.0.0 Linux版

環境パターン	OS	JDK
[1]	Windows Server 2025 日本語版	Oracle JDK 8u361
[2]	Amazon Linux 2023	OpenJDK 21.0.5

OS	ブラウザ
Windows 11	Microsoft Edge 151
	Google Chrome 152

全般

バージョン、および、エディションは必ず正しい組み合わせで運用してください

次のバージョン、および、エディションは必ず正しい組み合わせで運用してください。異なる組み合わせは、対応していません。

- intra-mart Accel Platform のバージョン
- IM-PDFDesigner for Accel Platform のバージョン
- IM-PDFDesigner for Accel Platform のエディション
- 帳票デザインツールのバージョン
- 連携エンジンのバージョン



コラム

正しい組み合わせについては、次を参照してください。

- 「IM-PDFDesigner for Accel Platform リリースノート」 - 「システム要件」
- 「IM-PDFDesigner for Accel Platform セットアップガイド」 - 「帳票デザインツール・連携エンジンバージョン」

IM-PDFDesigner for Accel Platform と IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform は共存できません

IM-PDFDesigner for Accel Platform と IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform は共存できません。どちらか片方を選択してください。

IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform は、連携エンジン IOWebDOC 1.x には対応していません

IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform は、連携エンジン IOWebDOC 1.x には対応していません。IOWebDOC 4.x のみ対応しています。

連携エンジン IOWebDOC 1.x ではいくつかの機能に制限があります

連携エンジン IOWebDOC 1.x ではいくつかの機能に制限があります。

- 言語（帳票）
- フォント（帳票）
- データの文字コード

- [連携エンジン IOWebDOC 1.x](#) では一部の帳票形式が利用できません
- [連携エンジン IOWebDOC 1.x](#) ではパスの長さに制限があります
- [連携エンジン IOWebDOC 1.x](#) は、サロゲートペア文字に対応していません
- [連携エンジン IOWebDOC 1.x](#) は、IVSに対応していません
- [連携エンジン IOWebDOC 1.x](#) は、ARMに対応していません

IM-PDFDesigner for Accel Platform を新規に導入する場合は IOWebDOC 4.x を使用してください。

IOWebDOC 1.x は互換性のために残されており、将来的に廃止される可能性があります。

IM-PDFDesigner for Accel Platform のバージョンアップやアップデートの際は IOWebDOC 4.x への移行を検討してください。

IOWebDOC 1.x から IOWebDOC 4.x への移行手順については、「[IM-PDFDesigner for Accel Platform 移行ガイド](#)」 - 「[IM-PDFDesigner for Accel Platform の IOWebDOC 1.x から IOWebDOC 3.x / IOWebDOC 4.x への移行](#)」を参照してください。

連携エンジン IOWebDOC 1.x では一部の帳票形式が利用できません

連携エンジン IOWebDOC 1.x では連票形式 IOBDOC に関する全ての機能が利用できません。

IOWebDOC 4.x は次の全ての帳票形式が利用できます。

- 単票形式 IODOC
- 連票形式 IOCELA
- 連票形式 IOBDOC

連携エンジン IOWebDOC 1.x ではパスの長さに制限があります

連携エンジン IOWebDOC 1.x で扱うファイルやディレクトリのパスの最大長は128文字です。半角文字は1文字、全角文字は2文字としてカウントします。

パスはStorage上のパスではなく、ファイルシステム上のパスを指します。

連携エンジン IOWebDOC 1.x は、サロゲートペア文字に対応していません

連携エンジン IOWebDOC 4.x を使用した場合、サロゲートペア文字の出力が可能です。

連携エンジン IOWebDOC 1.x は、サロゲートペア文字に対応していません。

FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 では、IOCELA は使用できません

IM-LogicDesigner で使用できるユーザ定義タスク機能は、IODOC と IOBDOC です。IOCELA は使用できません。

IOCELA をご利用で、FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 の導入を希望する方は、IOBDOC への移

複数表形式の帳票レイアウトは、FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 には対応していません

連票形式 IOBDOC では、次の形式の帳票レイアウトを作成することが可能です。

- 連票形式
- 複数表形式

上記のうち、複数表形式の帳票レイアウトは、FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 に対応していません。

連票形式のみ、FullPack版 IM-LogicDesigner 連携 に対応しています。

連携エンジン IOWebDOC 1.x は、IVSに対応していません

連携エンジン IOWebDOC 1.x は、IVS（Ideographic Variation Sequence／異体字を使い分ける仕組み）に対応していません。

連携エンジン IOWebDOC 1.x は、ARMに対応していません

連携エンジン IOWebDOC 1.x は、ARMに対応していません。

IOWebDOC 4.x のみ、ARMに対応しています。

Red Hat Enterprise Linux 8.x のARM64環境での構築はサポートしません

IM-PDFDesigner for Accel Platform は、Red Hat Enterprise Linux 8.x のARM64環境での構築はサポートしません。

上記環境での利用を検討している場合、事前に「[intra-mart サポートサイト](#)」へ問い合わせしてください。

帳票レイアウト作成

ツールによって帳票レイアウトファイルの互換性が異なります

ツールによって帳票レイアウトファイルの互換性が、次のように異なります。

編集ツール		
クライアント版帳票デザイン		
作成元ツール	ツール	Web版帳票デザインツール
クライアント版帳票デザインツール	○	×
Web版帳票デザインツール	○（※1）	○
FullPack版 Formaフォーム →IOD変換	○（※1）	○

※1：サポート対象は、クライアント版帳票デザインツール IOWebDOC v3.8.2以降です。

また、各ツールのバージョンは必ず正しい組み合わせで運用してください。

詳細については「[バージョン、および、エディションは必ず正しい組み合わせで運用してください](#)」を参照してください。



注意

上記以外の組合せは、サポート対象外です。

識別子名には制限があります

- 半角英数字記号以外の文字は使用できません。
- 最大文字数は128文字です。

1つの識別子に指定できるフォントは、1つまでです

1つの識別子に指定できるフォントは、1つまでです。

言語によって対応するフォントが異なるため、同一識別子に異なる言語（例：日本語と中国語）が混在している場合、文字化けが生じます。

連票形式 IOCELA の帳票レイアウトを利用する場合、環境によって帳票レイアウトファイルの改行コードの変更が必要です

連票形式 IOCELA の帳票デザインツールは、改行コードがCRLFの帳票レイアウトファイルを出力します。

次のいずれかの環境で連票形式 IOCELA の帳票レイアウトを利用する場合、帳票レイアウトファイル（.clf）の改行コードをCRLFからLFへ変更してください。

- Linux
- 連携エンジン IOWebDOC 1.x

文字枠の文字サイズを自動縮小する機能使用時は、入力できる文字数に制限があ

文字枠の文字サイズを自動縮小する機能は、枠内におさまるよう自動的にフォントサイズを縮小して表示します。

自動縮小した結果、フォントサイズが 0.5 以下となる場合は、判読できないフォントサイズとしてエラーとなります。

該当する機能を次に示します。

- 単票形式 IODOC
 - 文字枠属性「文字サイズを自動縮小」
- 連票形式 IOBDOC
 - 文字枠属性「出力制御」-「文字サイズ縮小」
 - 文字枠属性「出力制御」-「文字サイズ縮小(改行を挿入)」

複数表形式の帳票レイアウトを作成する場合、用紙方向の縦横、および、用紙サイズは揃えてください

連票形式 IOBDOC の複数表形式の帳票レイアウトは、用紙方向の縦横の混在、および、用紙サイズの混在には対応していません。

そのため、複数表形式の帳票レイアウトを作成する場合は、用紙方向の縦横、および、用紙サイズを揃えてください。

連票形式 IOBDOC では、明細表を持たない帳票を作成することはできません

連票形式 IOBDOC は明細表をメインに扱うツールのため、明細表を持たない帳票レイアウトで帳票を作成した場合、エラーが発生します。

連票形式 IOBDOC は、行数可変の明細表の扱いに適しています。

そのため、明細表を持たない、または、行数固定の明細表を扱う帳票の場合は、単票形式 IODOC での作成を検討してください。

また、連票形式 IOBDOC では、データ項目変数を1つ以上定義することで、明細表を扱う帳票レイアウトとして見なされます。

当該帳票レイアウトを引き続き連票形式 IOBDOC で作成する場合は、データ項目変数がデータブロック以外でも使用できることを利用し、定義されている外部変数をデータ項目変数に変更してください。

外部変数を1つだけデータ項目変数に変更する場合は、次の通りです。

- 「データ設定」画面-「データ数」を「1」と設定します。
- 「外部変数設定」画面から変更する外部変数を削除します。
- 変更する外部変数の「項目属性編集」画面-「基本属性」タブから、「データタイプ」を「データ項目変数」へ変更、「データ」を「\$1」へ変更します。

- 変更する外部変数へ渡していたデータを、データ項目変数へ渡すよう指定します。



コラム

データ項目変数を1つ以上定義した際に、データを渡さない、または、渡すデータの数的一致していない状態で帳票作成を行った場合、エラーが発生します。

そのため、定義したデータ項目変数と渡すデータの数が同じになるようにしてください。

Web版帳票デザインツール は、固定の用紙サイズのみ指定することが可能です

Web版帳票デザインツール は、任意の用紙サイズにカスタムすることはできません。

次の、固定の用紙サイズのみ指定することが可能です。

- A2～A6
- B2～B6
- 葉書
- Letter
- Tabloid(11x17inch)
- Ledger(17x11inch)
- Legal
- Screen

Web版帳票デザインツール は、一部のオブジェクトのみ追記することが可能です

Web版帳票デザインツール は、次のオブジェクトのみ追記することが可能です。

- 固定文字
- 識別子
- 文字枠
- ボックス
- 丸ボックス
- 直線
- イメージボックス
- バーコード
- 2次元バーコード

Web版帳票デザインツール は、一部のフォントのみ指定することが可能です

Web版帳票デザインツール は、次のフォントのみ指定することが可能です。

- IPA明朝
- IPAゴシック
- BIZ UDMincho
- BIZ UDGothic
- MS 明朝
- MS ゴシック



注意

MS フォント を指定した場合、表示倍率によって Web版帳票デザインツール 上での見た目がずれる場合があります。

上記現象が発生しても、オブジェクトの座標やフォントサイズ等、レイアウトの設定値に影響はありません。



注意

指定したフォントがクライアント環境にインストールされていない場合、Web版帳票デザインツール 上では代替フォントが適用されます。

帳票レイアウトファイル内では、指定したフォントが保持されます。

FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 には、いくつかの制限があります

FullPack版 Formaフォーム→IOD変換 には、画面アイテムの一部の設定が変換後のオブジェクトに反映されない等の制限がいくつかあります。

変換仕様の詳細については、「[IM-PDFDesigner FullPack for Accel Platform Formaフォーム→IOD変換 仕様書](#)」を参照してください。

PDF帳票出力

PDFセキュリティでは2種類のパスワードを設定することが可能です

PDF帳票出力時に設定可能なPDFセキュリティのパスワードは、次の通りです。

- オープンパスワード

PDFファイルの閲覧を制限するためのパスワードです。Adobe Acrobat Reader 等で開く際にパスワードが要求されます。

- セキュリティパスワード

PDFファイルに対して、編集・加工等の操作を制限するためのパスワードです。Adobe Acrobat 等で編集する際にパスワードが要求されます。

PDF帳票出力時に設定可能なPDFセキュリティの暗号化レベルは 40bit RC4 です。

PDFセキュリティのパスワードには制限があります

PDF帳票出力時に設定可能なPDFセキュリティのパスワードには次の制限があります。

- 半角英数字記号以外の文字は使用できません。
- Linux の場合、次の文字は使用できません。
 - " : ダブルクォーテーション
 - ' : バッククォート
 - \$: ドル記号

PDF文書のプロパティには制限があります

PDF帳票出力時に設定可能なPDF文書のプロパティには次の制限があります。

- 半角英数字記号以外の文字は使用できません。

PNGのアルファチャンネルは、透明のレイヤーが白の背景色で出力されます

PNGのアルファチャンネルが設定されている透明のレイヤーは、PDF帳票出力時に白の背景色で出力されます。

保証内容及び対象

この保証規程（以下、「本書」という。）並びに貴社が当社と締結した一切の契約が定める要件（システム要件を含むがそれに限らない。）

及び制限事項の範囲内にて貴社が本製品を利用することを条件として、当社は貴社に対し、本製品に同封され、又は当社ホームページ（https://document.intra-mart.jp/library/previous_index.html?product=pdfd）に掲載されているマニュアルの最新版のとおり本製品が動作することを保証します。

なお、当該保証は、貴社における内部的使用を目的とする限りにおいて適用されるものです。

また、当該保証は、当社の一方的な裁量により、無償で交換若しくは修補、又はかかる本製品の対価として

イントラマートが貴社から受領した金額の返金のいずれかの方法によるものとします。

上記の対応は、正規の当社製品を購入され、適法かつ誤りなくユーザ登録を完了されたお客様のみに当社が行うもので、当社はその他の対応又は保証、特に本製品をインストールしたハードウェア、接続製品、及びそれらに保存されたソフトウェア、データ等の保証（但し、これらに限られない。）は一切行いません。

保証の適用除外

下記の場合は動作保証が適用されません。

- 貴社が、本書又は貴社が当社と締結した一切の契約に定める要件（システム要件を含むがそれに限らない。）
その他の制限事項の定める範囲内にて本製品を利用しなかった場合
- 火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害およびその他の天災地変、公害等の外部的事由による誤動作の場合
- 合理的な使用方法に反するご利用に起因する場合
- 貴社あるいは第三者が改変・変更等及びそれらの作業を行ったことに起因する場合
- 本製品以外のソフトウェア、ハードウェア等との互換性の問題から生じる場合

免責

本製品に関する当社の損害賠償責任は、理由のいかんを問わず、本製品の「ソフトウェア使用許諾契約書」に定める責任の限定の範囲内といたします。

その他の契約との関係

本製品の保証に関して、貴社が当社と締結した一切の契約と本書の間に齟齬がある場合には、本書の記

intra-mart は 株式会社イントラマート の登録商標です。

Oracle と Javaは、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

本製品を使用する場合は、本製品に含まれる各ソフトウェアのライセンスについても同意したものとします。

以上